

|  |   |   |
|--|---|---|
| <p style="text-align: center;"><b>再生可能エネルギーの環境経済学</b><br/>Renewable Energy and Environmental Economics</p>   | <p>(教員名)<br/>&lt;室田 武&gt;</p>           |   |
| <p>都市ビジネス専攻 展開科目<br/>都市政策専攻 展開科目<br/>都市情報学専攻 展開科目</p>  | <p style="text-align: center;">講義科目</p> | <p style="text-align: center;">選択</p>           |
|  | <p style="text-align: center;">1 単位</p> | <p style="text-align: center;">2017 年度・前期集中</p> |
| <p><b>I 科目の主題</b></p> <p>いわゆる化石燃料や原子力を利用する大規模・集中型技術に大幅に依存し、再生可能エネルギーを切り捨ててきたのが高度経済成長期とそれ以降の日本経済だが、2011 年 3 月に発生した東日本大震災は、そうした経済運営の転換を迫っている。不安定な集中よりも安定性の高い分散に力点を置く動きが芽生え、再生可能エネルギーの見直しと新たな開発への期待が高まっている。電力自由化の進行と並行する再生可能エネルギー電気の固定価格買取制度の導入もその一つの表れである。本科目は、そうした新しい状況をエネルギー政策の面から把握しようとするものである。より具体的には、都市ごみ、小水力、木質バイオマス、太陽熱、太陽光、風力、地熱などについて、それらの利用の利害得失を経済地理の側面を含めて分析し、再生可能エネルギー政策の望ましいありかたを環境経済学の面から論じる。</p> |   |   |
| <p><b>II 授業の到達目標</b></p> <p>本科目履修者各人が、大阪市内外のエネルギー資源の開発利用の歴史についての理解を深め、現状での再生可能エネルギーと潤渇性エネルギーの相対的位置づけを把握できるようにする。それとともに、大阪市内、府内のエネルギー事情を日本全体、および世界のエネルギー事情と数量的に比較・考察する視点を学ぶ。以上を踏まえ、大阪や日本のエネルギー政策、とりわけ再生エネルギー政策の立案に貢献できるだけの力量を身につけることを到達目標とする。</p>   |   |   |
| <p><b>III 授業内容・授業計画</b></p> <p>以下のテーマについて、順次講義を行うとともに、履修者からのコメント、討論を求める。</p> <p>1. 再生可能エネルギーと潤渇性エネルギー、2. 再生可能エネルギー利用の身近な実例、3. エネルギーの単位・エネルギーと環境、4. 都市ごみ—処理・処分から利活用へ、5. 小水力—巨大ダム開発の終焉、6. 木質バイオマス—多面的な利用の姿、7. 太陽熱—簡易な熱供給の方法、8. 太陽光—広い土地を求める利用技術、9. 風力・地熱—地域依存性の高いエネルギー、10. 再生可能エネルギー電気の固定価格買取制度—その功罪、11. 大阪地方の再生可能エネルギー利用の歴史、12. 化石燃料と再生可能エネルギーの望ましいバランス、13. 原子力発電の諸問題、14. 環境経済学とエネルギー分析、15. エネルギー問題の展望</p>      |   |   |
| <p><b>IV 事前・事後の学習内容</b></p> <p>科学技術に関係する科目であるため、初歩的な物理・化学の知識を事前に蓄積しておくことが望ましい。しかし、講義の理解に必要な事項については授業中に解説するので、受講に際しての必須要件ではない。</p>  |   |   |
| <p><b>V 評価方法</b></p> <p>筆記試験 20 点、教室での口頭発表 30 点、レポート提出 50 点の合計 100 点満点で評価する。</p>   |   |   |
| <p><b>VI 受講生へのコメント</b></p> <p>学生参加の討論を重視するので、受動的な聴講ではなく、積極的な提言が歓迎される。</p>  |   |   |
| <p><b>VII 教材</b></p> <p>教科書: シリーズ地域の再生編集委員会(2013)『コミュニティ・エネルギー』、農文協。<br/>統計書: EDMC 編『エネルギー・経済統計要覧 (2017 年版)』、省エネルギーセンター。</p>   |   |   |